

令和 2 年 5 月 25 日現在

機関番号：13301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K03062

研究課題名(和文) 中近世加越能地域の村落と宝物

研究課題名(英文) Villages and treasures of the Kaetsuno area in the Middle Ages

研究代表者

黒田 智 (KURODA, Satoshi)

金沢大学・学校教育系・教授

研究者番号：70468875

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、中近世日本の村落の宝物に関する文化史研究である。(1)現役の学校教員による中近世加越能地域史に関する20本の論考を収録した『草の根歴史学の未来をどう作るか』(文学通信)を刊行した。また(2)越中般若野荘(富山県砺波市)および薬勝寺の調査を実施し、大般若経をはじめとする宝物の伝来と地域社会との関係をまとめた。(3)明和6年小松勝光寺周好の日記『烏兎記』の翻刻、史料紹介を行なった。(4)加賀得橋郷(石川県能美市・小松市)牛島地区の明治期土地台帳のデータベースを作成した。そのほか、各地で文化財調査とフィールドワークをすすめ、加越能地域を中心とする個別の研究論文、口頭報告として公表した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

薬勝寺文書や大般若経(砺波市)、牛島地区区有文書(能美市)、熊野大仏や松龍寺千体仏(あわら市)などの新出史料を発掘するとともに、各種データベースや目録を作成した。これら加越能地域における多様な史料をあつかった新しい歴史学の史料論を展開し、論文や著書として刊行、合わせて地域の講座・講演、シンポジウムを通して地域に還元することをめざした。特に『草の根歴史学の未来をどう作るか』(文学通信)は、地域史研究および地域学習教材づくりを実践し、合わせて学校教育や教員養成のあり方についても提言をしている。

研究成果の概要(英文)：This study focuses on the cultural history surrounding treasures of Japanese villages of Japan in the middle early modern times.

(1) We published "How to Create the Future of Grassroots History" (Bungaku-tsusin), which contains 20 articles written by school teachers on the history of the Kaetsuno area in the Middle and Early modern times. (2) Through field work in Hannyano-so (Tonami City, Toyama Prefecture) and investigation of Yakushoji Temple, we examined the relationship between the treasures, including the General juvenile, and the local community. (3) We reprinted diary "Uto-ki" written by Shuko of Shokoji Temple in 1769 and introduced it as historical materials. (4) We also created A database of the land register of the Ushijima area of Tokubashi-go (Nomi City, Komatsu City, Ishikawa Prefecture) in the Meiji period.

研究分野：中近世日本文化史

キーワード：歴史図像学 宝物論 地域史研究

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

本研究の背景には、第1に日本中世史研究における「村の宝」論、第2に歴史学・文学研究における由緒・縁起研究の進展、第3に荘園景観復原調査・研究の深化がある。加えて、第4に寺院調査が本格化し、寺院史料論が確立しつつあること、第5に日本美術史や絵画史料論における受容史的研究の蓄積があげられる。

また申請者は、基盤研究(C)「豊臣コレクションの歴史図像学的研究」(2014~2016年度)において、中近世武家政権の宝物コレクションに関する調査・研究を進め、高岸輝・黒田智『天皇の美術史』3(吉川弘文館2017年)などにまとめた。本研究は、これまで進めてきた天皇や公家・武家といった前近代の中央権力の中枢に伝来してきたハイカルチャーの系譜に対して、民衆文化に流れる伏流水のごときローカルチャーの系譜を明らかにすることを目的とする。とりわけ16世紀から17世紀にかけて起こった出版をはじめとするメディア革命は、それまで文字にすらなることなく、巷間に語られてきたローカルチャーの造形化を促した。中近世移行期を焦点にローカルチャーの宝物の系譜を明らかにする本研究は、権力中枢における宝物コレクション研究と対をなす研究として位置づけられる。

2. 研究の目的

本研究は、中近世日本の村落の宝物に関する文化史研究である。日本の村落に伝えられた宝物は、政治的変動や経済発展、社会の変貌、文化的変容、なかでも16世紀後半から18世紀前半にかけて起こったメディア革命と文化の民主化を越えて、どのように流伝し、今に伝えられたのか。本研究では、特に加越能地域をフィールドにして、(1)荘郷鎮守や村落寺院(檀那寺・氏寺)に伝存されてきた宝物の中近世における流伝の歴史的考察を行なうとともに、宝物の伝存を支える(2)村落内・村落間・領主間・都鄙間のネットワークの様相を解明することを目的とする。他方、宝物の保存・管理主体としての村落内部にも焦点を当て、(3)村落景観や村落構成員の階層といった村落秩序の総合的復原を試みる。

3. 研究の方法

本研究では、加越能地域をフィールドに、以下の4つの作業を中心に研究を進めた。すなわち、絵画・彫刻・経典等の寺社所蔵史料の調査、現地聞き取り調査、関係史料の収集と分析・読解および先行研究の把握、研究論文の執筆である。

について、調査作品の熟覧・デジタル写真撮影を実施する。特に像背銘文や像内銘文では、赤外線や内視鏡による撮影等を工夫する。撮影および画像処理や判読、資料整理をすすめる。

について、現地聞き取り調査のため、ベースマップおよび字図・地籍図等の情報を入手し、荘域の確認、屋号と集落景観、有力者の家の伝承、小地名、水利灌漑現況等を総合的に調査する。対象地域のなかでも、近世・近代史料が比較的多く残る地域を選定し、文書目録や景観復原のための土地台帳等のデータベース作成を進める。

について、金沢市立玉川図書館加越能文庫、石川県立図書館、富山県立図書館などの地域史料を所蔵する図書館のほか、東京大学史料編纂所、国立国会図書館、早稲田大学図書館、国文学研究資料館等での史料収集を行なう。

4. 研究成果

[1]『草の根歴史学の未来をどう作るか』の刊行

2018年から加越能地域史に関する論考20本を集めた論文集の編集を進め、本研究のまとめとして、黒田智・吉岡由哲編『草の根歴史学の未来をどう作るか』(文学通信、2020年1月)を刊行した。現役の小・中・高校教員による中近世加越能地域史に関する20本の論考を収録したものである。絵画や彫刻、奇談や縁起、そのほか多様な史料をあつかった新しい歴史学の史料論を展開し、あわせて地域史研究および地域学習教材の実践例を紹介したものである。さらに、コラムや参考文献等を付して、学校教育や教員養成のあり方についても提言をしている。

[2] 越中般若野荘と薬勝寺の調査・研究

越中般若野荘(富山県砺波市)薬勝寺の文化財調査を2017年12月に2回3日間にわたって実施し、古文書・大般若経・過去帳、そのほか頂相彫刻や絵画類の調査・撮影を実施した。その後、現地調査を数回行なっている。若林陵一「中世後期越中国般若野荘における社会の枠組」を『富山史壇』に掲載した。2018年3月には、黒田智「薬勝寺大般若会と中世般若野荘」の研究報告を寺社縁起研究会にて行なった。

2018年9月に越中般若野荘(富山県砺波市)の現地調査を実施した。荘域の東南部の山間地区を中心に小地名や屋号等の聞き取り調査を実施したほか、円池新村地区では個人蔵釈迦如来像ほか、系図等の史料も調査することができた。2019年3月に黒田智「薬勝寺大般若会と越中国般若野荘」(海老澤衷編『よみがえる荘園』勉誠出版)を発表した。2019年6月には、となみ散居村学習講座(富山県砺波市)において「だれが徳大寺実通を殺害したのか」を講演した。

[3]『烏鬼記』の史料翻刻と研究

2017年から、明和6年(1769)の小松勝光寺周好の日記『烏兎記』の輪読会を開催した。月2回程度の輪読会の成果は、小西洋子・木越隆三・室山孝・渡貫多聞・若林陵一との共同研究として、『金沢大学大学院人間社会環境研究科紀要』36~39号に史料翻刻・紹介を掲載した。

[4] 加賀得橋郷の調査

2017年6月と9月に加賀得橋郷(石川県能美市・小松市)の現地調査聞き取りを実施し、牛島地区の区有文書の撮影を行なった。また延慶2年検注帳および、屋号・小地名データベースを作成した。また、同荘内の牛島区有文書の分析をすすめ、牛島地区の明治期土地台帳のデータ入力作業を行なった。その成果の一部を、若林陵一「加賀得橋郷の村々と中世社会」(『金沢大学大学院人社環研紀要』)に掲載した。

[5] 人ならざるものとの交感

2018年12月に、ワークショップ「和漢の故事人物と自然表象」(東京大学東洋文化研究所)にて「人ならざるものとの交感」パートのコメンテーターをつとめた。黒田智「人ならざるものとの交感」(島尾新・宇野瑞木・亀田和子編『和漢のコードと自然表象』(勉誠出版、2020年3月)では、近世金沢の奇談集『三州奇談』を素材に、16・17世紀に転回する自然表象の歴史の変容について論じた。

[6] その他

そのほか、主な公刊された著書・論文に、『里山という物語』(勉誠出版 2017年)、『天皇の美術史』3 乱世の王権と美術戦略(吉川弘文館 2017年)を刊行。黒田智・吉岡由哲「地域史研究と歴史教育」(『情報知識学会誌』29巻4号 2019年) 吉岡由哲「古写真の研究資源化」(『岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター紀要』39号 2020年)などがある。

口頭報告では、黒田智「ラグーンに棲む異類と水災の記憶」(東京都中央区連携講座「金沢を知る」 2017年) 若林陵一「加賀国倉月荘の「村」と一向一揆」(北陸史学会大会 2018年) 黒田智「合戦図屏風の村落景観」(シンポジウム「荘園調査とweb公開」2018年) 小口歩美「兩宝童子の図像学 中近世の縁起と図像から」(寺社縁起研究会東京支部例会 2019年) 黒田智・吉岡由哲「地域史研究と歴史教育」(第24回情報知識学会フォーラム 2019年)などがある。

実施した調査に、2018年度には(1)観音院(石川県金沢市)(2)廣誓寺(石川県金沢市)(3)十輪院(奈良県奈良市)にて仏像や絵画、古文書・位牌等がある。2019年度には、(4)福井県あわら市松龍寺千体仏、熊坂地区熊坂大仏の調査、(5)金沢市西養寺所蔵絵馬類の調査を実施した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計10件（うち査読付論文 6件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 小西洋子・木越隆三・黒田智・室山孝・渡貫多聞	4. 巻 37
2. 論文標題 資料紹介 小松市称名寺所蔵『烏兔記』明和六年三月～五月十五日	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 人間社会環境研究	6. 最初と最後の頁 139-158
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） https://doi.org/10.24517/00054193	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小西洋子・若林陵一・黒田智	4. 巻 36
2. 論文標題 資料紹介 小松市称名寺所蔵『烏兔記』明和六年一月・二月	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 人間社会環境研究	6. 最初と最後の頁 63-82
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） http://doi.org/10.24517/00053086	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉岡由哲	4. 巻 38
2. 論文標題 盛岡松尾神社所蔵『杜氏職由緒』を読む	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 岩手県埋蔵文化財センター紀要	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 若林陵一	4. 巻 185
2. 論文標題 中世後期越中国般若野荘における社会の枠組	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 富山史壇	6. 最初と最後の頁 1 - 12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 若林陵一	4. 巻 36
2. 論文標題 加賀国得橋郷の村々と中世社会	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 人間社会環境研究	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) http://doi.org/10.24517/00053091	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 黒田智	4. 巻 212
2. 論文標題 関ヶ原合戦と寺社縁起	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 アジア遊学	6. 最初と最後の頁 131 - 138
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 黒田智	4. 巻 212
2. 論文標題 関ヶ原合戦図屏風の近世	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 アジア遊学	6. 最初と最後の頁 78 - 85
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小西洋子・木越隆三・黒田智・室山孝・渡貫多聞	4. 巻 38
2. 論文標題 資料紹介 小松市称名寺所蔵『烏兔記』明和六年五月十六日～七月二十二日	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 人間社会環境研究	6. 最初と最後の頁 46-64
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) http://doi.org/10.24517/00056454	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小西洋子・木越隆三・黒田智・室山孝・渡貫多聞	4. 巻 39
2. 論文標題 2. 論文標題 5. 発行年 資料紹介 小松市称名寺所蔵『烏兔記』（明和六年七月二十三日～八月三十日）	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 人間社会環境研究	6. 最初と最後の頁 139-153
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） http://doi.org/10.24517/00058202	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉岡由哲	4. 巻 39
2. 論文標題 古写真の研究資源化 久田佐助関連古写真を事例として	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター紀要	6. 最初と最後の頁 59-74
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） https://doi.org/10.2964/jsik_2019_044	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計10件（うち招待講演 1件／うち国際学会 0件）

1. 発表者名 黒田智
2. 発表標題 人ならざるものとの交感 コメント
3. 学会等名 ワークショップ「和漢の故事人物と自然表象」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 黒田智
2. 発表標題 藤原鎌足像を読む 秘められたメッセージ
3. 学会等名 高槻市しろあと歴史館 秋季特別展「藤原鎌足と阿武山古墳」記念講演会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 黒田智
2. 発表標題 合戦図屏風の村落景観 杭瀬川合戦と笠縫堤
3. 学会等名 シンポジウム「荘園調査とweb公開 備中国新見荘から美濃国大井荘へ」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 黒田智
2. 発表標題 『豊臣御数寄屋記録』の諸本と問題点
3. 学会等名 国文学研究資料館共同研究「軍記および関連作品の歴史資料としての活用のための基盤的・学際的研究」第1回研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小口歩美
2. 発表標題 雨宝童子の図像学 中近世の縁起と図像から
3. 学会等名 寺社縁起研究会関東支部例会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 黒田智
2. 発表標題 薬勝寺大般若会と中世般若野荘
3. 学会等名 寺社縁起研究会東京支部例会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 黒田智
2. 発表標題 ラグーンに棲む異類と水災の記憶
3. 学会等名 東京都中央区連携講座「金沢を知る」
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 黒田智
2. 発表標題 だれが徳大寺実定を殺害したのか
3. 学会等名 となみ散居村学習講座
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 黒田智・吉岡由哲
2. 発表標題 地域史研究と歴史教育
3. 学会等名 第24回情報知識学会フォーラム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 黒田智
2. 発表標題 織田信長の山中猿施行譚を読む
3. 学会等名 歴史学研究会中世史部会例会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計6件

1. 著者名 海老澤 衷 黒田智 清水克行 高木徳郎	4. 発行年 2019年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 426
3. 書名 よみがえる荘園 景観に刻まれた中世の記憶	

1. 著者名 堀新 井上泰至 山本聡美 黒田智	4. 発行年 2019年
2. 出版社 共立女子大学	5. 総ページ数 236
3. 書名 戦国軍記・合戦図屏風と古文書・古記録をめぐる学際的研究	

1. 著者名 結城正美・黒田智	4. 発行年 2017年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 323
3. 書名 里山という物語	

1. 著者名 高岸 輝、黒田 智	4. 発行年 2017年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 254
3. 書名 乱世の王権と美術戦略	

1. 著者名 黒田智・吉岡由哲	4. 発行年 2020年
2. 出版社 文学通信	5. 総ページ数 303
3. 書名 草の根歴史学の未来をどう作るか	

1. 著者名 島尾新・宇野瑞木・亀田和子・黒田智	4. 発行年 2020年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 268
3. 書名 和漢のコードと自然表象	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----